

令和元年度 学 校 評 価 書 (自己評価・学校関係者評価)

山形県立長井工業高等学校

本校の教育目標

- (1)「人間性の育成」:責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
- (2)「創造性の育成」:確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
- (3)「社会性の育成」:ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会の発展に貢献できる人間性の育成

本県教育目標 : 人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

本県教育のテーマ: つなぐ ~いのち、学び、地域~

目指す人間像: 「いのち」をつなぐ人 学び続ける人 地域とつながる人
広い視野と高い志を持って(全体を貫く基本姿勢)

【達成度】 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:まあまあ達成できた D:まだ達成できない E:全然達成できない

	重点目標	評価項目	具体的方策	評価基準	目標達成に向けた取り組みと達成状況分析	達成度	次年度に向けた課題と改善策	学校関係者評価	総 括
1	社会を生き抜く 確かな学力の 育成	学習指導	① 教科指導力の向上を目指し、授業研究会を年2回の研究授業週間に全教科で実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	朝学習のシステムが定着し、遅刻生徒が減少、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨む雰囲気作りがなされた。年2回の研究授業週間においては、教科を越えて授業を参観し合い、活発に意見交換がなされた。また、本校の全学習の成果と言える全校課題研究発表会は昨年度以上の成果を上げレベルアップした。しかし一方で、家庭学習等の自主的学習時間や、知識の質を高めるための読書時間は少ない。 全クラス出席状況は良好であった。また、問題により登校できなくなる生徒に対しても、きめ細かな対策が取られた。	B	専門科目・普通科目問わず「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して組織的に授業改善の研修等を行う必要がある。また、全体として学習意欲の喚起を図りつつ、生徒を主体的に伸ばす手立ての研究も必要である。	・卒業生が中学校に遊びに来て「長工はすごく楽しい」と話している。全校課題研究発表会や長井市少年議会などを参観しても、公的な場できちんと振る舞う様子が見られ、経験を積んで成長していく姿が実感できる。また、保護者アンケートの回収率の高さをみても、保護者に信頼されていることが窺われ感心する。	今年度も昨年度同様、地域有識者・企業経営者・大学関係者・行政関係者・PTA役員から成る7名の学校関係者評価委員会(学校評議員会と同一メンバー)を設置した。それぞれ異なる立場から多様な視点で、的確かつ温かいご意見やご助言をいただくことができた。また、本校卒業生の地元定着率の高さについてたいへん評価していただき、「長工生よ、地域を潤す源流となれ!」のスローガンに象徴される本校生のあり方に、期待を寄せていただいた。今後とも生徒の実態と伸ばすべき力、学校の進むべき方向性を見定め、適切な達成目標を設定し、学校関係者評価委員の貴重なご意見に真摯に耳を傾け、PDCAサイクルを確立していきたい。
			② 授業力向上と生徒の実態把握のため、授業評価と学校生活アンケートを年2回実施する。						
			③ 全クラス、出席率99%以上を目指す。						
			④ 授業時以外の自主学習(朝学習、放課後の講習、家庭学習等)の時間を確立させる。						
			⑤ 朝学習や夏季休業中において、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。						
		進路指導	⑥ 進路意識の高揚を図るため、進路講話・ガイダンスを各学年・各学科等で、年2回以上実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	就職については昨年度に引き続いて高卒求人状況が良好であった。加えて、進路ガイダンスによる意識づけや全職員による面接指導等によって順調に内定をいただいた。進学においては、極めて高倍率である山形大学工学部A0入試で合格者を出すことができた。山形県立産業技術短期大学校へは、希望者全員が推薦入試で合格を果たした。	B	3年間の継続的な指導によって確かな基礎学力を培い、山形県立産業技術短期大学校への合格者をもっと出せるようにしたい。また進路意識の高揚を図って進路に関連する多彩な体験を積み、推薦入試やA0入試を活用して、上級学校特に国公立大工学部に合格することができる指導体制を強化したい。		
			⑦ 進路目標達成の手がかりとさせるため、生徒全員に資格取得やものづくり、コンテスト等に取り組みさせる。						
			⑧ 就職希望者の内定率100%を目指す。(年度内内定100%)						
			⑨ 進学希望者全員の第一志望校合格を目指す。						
2	社会で自立できる豊かな心と 実践力の育成	生徒指導	① 基本的な生活習慣確立のための指導をあらゆる機会をとらえて実施しながら、明るく素直で、あいさつのできる生徒を育成する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	全職員の協力の下、定期的に身だしなみ指導を行い、自発的に身だしなみを整える習慣づくりを行った。また、朝の立哨指導やあいさつ運動を通して、あいさつの習慣が浸透しつつある。生徒部または外部講師による講話等の機会や日々の全職員の指導によって、問題行動やトラブルを未然に防止し、生徒に常識・良識を身につけさせることができた。	B	今後とも、卒業後社会人として通用する常識・良識ある生徒を育てていかなければならない。そのために挨拶や身だしなみ・マナーの指導を重視していく。また、高度に情報化された現代社会の中にあつて多くの生徒がSNSを利用している。トラブルを未然に防ぐためには、今後も継続的に情報モラル教育を重視していく必要がある。		
			② 身だしなみ点検・改善指導を年5回以上実施するとともに、学年・学科、及び日常の授業等の場で事後指導を継続し、改善を要する生徒を減少させる。						
			③ 規範意識や情報モラル向上を図るために、外部講師や担当教員による生徒への講話等を年2回以上実施する。						
		特別活動	④ 部活動およびものづくりコンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上を目指す。	教職員による評価の平均がC以上になること。	ものづくりコンテスト旋盤作業部門で県大会優勝、東北大会出場を果たすことができた。また、メカトロアイデアコンテストでは惜しくも全国大会に出場することはできなかったが善戦した。マイコンカーラリー山形県大会では個人第4位を獲得し、全国大会12年連続出場を果たした。 部活動においてはソフトテニス男子個人で地区新人大会優勝を果たした。卓球女子シングルスも県ベスト16と、ベスト8まであと一步の活躍を続けている。	C	運動部に続いて文化部においても活動方針が策定され、学校の教育目標を達成するための適正で効果的な活動のあり方を目指す。サッカー部・バスケットボール部など大人数の部が活発に活動していることも評価できるが、ギリギリの人数でも単独チームとして夏の甲子園予選で善戦した野球部を始め、他校と合同チームを組みながら地道に活動している少人数の部に対しても評価・激励しながら活動環境を整えていきたい。		
			⑤ 生徒会代議員会を年3回以上開催し、自治意識の涵養と生徒会の活性化を図る。						
			⑥ 部活動およびものづくりコンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上を目指す。						
			⑦ 部活動およびものづくりコンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上を目指す。						
			⑧ 部活動およびものづくりコンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上を目指す。						
			⑨ 部活動およびものづくりコンテスト等の大会において、県大会ベスト8以上を目指す。						
3	安全安心で元 気な学校づくり	いじめ対策	① 生徒が抱える悩みや課題を早期に発見し適切に対応するために、面談週間等を活用した生徒面談を年2回以上実施する。また、保護者との信頼関係を構築するために、保護者面談等を行う。さらに、定期的にアンケートを実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	いじめ防止基本方針・いじめ防止対策組織の設置に基づいて計画的・組織的に取り組んでいる。今年度のいじめの認知件数は1件であったが、いじめ調査アンケートがしつかり機能し、組織的な対応で事実関係を明らかにしたうえで適切な指導がなされた。多感で発達途上の高校生は人間関係に悩み、うまく対処できない場面を乗り越えながら成長するものであるという認識のもと、全職員で取り組むことができた。その後クラス担任はもろん全職員が、一人一人の生徒を大切に真摯に向き合うことに努め、その成果が学校全体の比較的落ち着いた良好な雰囲気につながっている。	B	今後とも、いじめに対する組織的な対応の必要性や、いじめ問題が起きにくい集団づくりについて研修を深め、いじめ防止に向けた組織の強化と対策の充実を図っていきたい。「いじめアンケート」は家に持ち帰らせて記入させ回収している。回収が面倒でも安心して書ける配慮を継続しつつ、アンケートにあがってこないいじめも見逃さないように、アンテナを高く鋭敏に磨いておく教師集団、かつ学科・学年を越えて全職員で組織的に生徒の指導に当たれる教師集団でありたい。		
			② グループエンカウンター等いじめ防止のための研修、及びいじめの認識・いじめ発生時の対応の仕方等、いじめに関する校内研修を実施する。						
			③ 継続的にネットチェックを行い、Q-U検査等も活用しながら、学年・科を中心に全職員で情報を共有し、加害・被害発生を未然に防止する。						
			④ いじめ防止に関する様々な取り組みについて、PTAや関係者等に伝え、助言を生かしながら改善をする。						
		保健衛生 安全指導	⑤ 定期健康診断の受診勧告書を迅速に配布し、学年や保護者と連携しながら受診率の向上を目指す。(歯科・低視力者の受診率40%以上)	教職員による評価の平均がC以上になること。	今年度は置賜地区のモデル校に選ばれ、県教委と日本交通安全普及協会による自転車の安全運転教室を実施した。4月末の早い時期に、専門家による法規や実技の体験学習を行えたことは効果的であった。 また、地域やPTAと連携しての交通安全街頭指導や外部講師による薬物乱用防止講話・情報モラル講話等を実施して、健康や安全に関する意識を高めることができた。	B	歯科・視力の受診率の向上はまだ課題となっている。保護者と連携しながら、より一層健康・安全教育を進めていきたい。		
			⑥ 地域やPTAと連携し、街頭での交通指導と通学路の安全点検を年2回以上実施する。						
			⑦ 薬物、情報機器、防犯、交通に関わる講話を実施する。						
		4	地域に貢献し 信頼される学 校づくり	地域連携 情報公開	① 全校生によるボランティア活動や地域と連携した活動を年1回以上、生徒会や工作部等によるボランティア活動を各学期に1回以上実施する。	教職員による評価の平均がC以上になること。	全校生によるあやめ公園清掃ボランティアや生徒会によるフラワー長井線車両清掃のランティアの他にも、吹奏楽部の施設演奏会、工作部による「おもちゃの病院」等例年以上に活発なボランティア活動を展開することができた。特に「おもちゃの病院」は長井市のイベントや福祉施設等から依頼を受け計5回活動した。「大切なおもちゃを直してもらった」と小学生からお礼の葉書が届くなど、本校独自の地域に根差した取り組みとして成果を上げている。工作部員や引率者の負担を考慮しながら、大切に継続しつべき取り組みであると考えられる。また、長工祭におけるパネルディスカッションや全校課題研究発表会をはじめ、本校の様々な活躍が山形新聞等の新聞に掲載されたことに加え、学校見学も積極的に受け入れ、学校広報活動は活発化している。	B	今後とも粘り強く本校の魅力や地域の中学生・保護者に伝えていきたい。また従来地域と協働して行ってきた様々な取り組みをブラッシュアップし、一層魅力ある学校づくりに職員一丸となって取り組むたい。
					② 連携校(芸工大・産技短)等との協力を密にするため、相互交流を2回以上実施する。				
③ ホームページを定期的に更新し、本校教育活動の情報発信をする。									
④ 本校に対する興味・関心を喚起し、理解を深めてもらうため、学校案内パンフレットを作成し地元の中学校や企業に配布する。									
⑤ 中学生と保護者の本校に対する理解を深められるよう、中学生対象学校説明会を実施する。									